

令和6年度 特別の教育課程の実施状況等について

岐阜県		
学校名	管理機関名	設置者の別
瑞穂市立西小学校	瑞穂市教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学校名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
瑞穂市立西小学校	https://edu-mizuho.com/sunisi/page-11059/

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学校名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
瑞穂市立西小学校	https://edu-mizuho.com/sunisi/page-11121-2/	https://edu-mizuho.com/sunisi/page-11121-2/

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- 一部、計画通り実施できていない
- ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

特記事項なし

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- 実施していない

<特記事項>

保護者及び地域住民に対して年に1度公表会か研究発表会を実施したり、年に数回の授業参観を実施したりすることで、特別の教育課程を瑞穂市が実施していることを感じ、共に考えることができる場を設定している。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

瑞穂市では、外国人児童生徒が毎年増加傾向になっており、言語も多様化している。本校でも外国人児童が増えつつある。このような中で、文化や言語の違いを乗り越えて、どの児童も、グローバルな視野をもち、楽しく学校生活を送ることができるようにしていくために、互いを尊重し合うことが大切である。そのために、コミュニケーションのツールとなる英語を低学年の段階から導入している。低学年では、色や数、果物、動物などの身近な物の英語表現に慣れ親しむことに重点を置き、音声面を中心に取り組んでいる。それにより、児童が楽しく英語学習に取り組み、進んでコミュニケーションをとる姿が多くみられるようになっている。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本特例では1・2年生が年間25時間の外国語活動の授業、3・4年生が年間35時間の外国語科の授業、5・6年生が年間70時間の外国語科の授業を行っている。

外国文化に触れることが中心で、グローバルな視野をもち、自分の考えや気持ちを英語で伝えながら、積極的にコミュニケーションを行うことができる児童の育成は、人格の完成を目指し、心身ともに健康な国民の育成に大きく関わってくる。また、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自立の精神を養うことにも関わってくる。義務教育9年間を通して、どのように育成していくかを今後も考えていかななくてはならない。

4. 課題の改善のための取組の方向性

高学年になると、学習内容も多くなり、「話す」「聞く」活動が中心であった学習から、「読む」「書く」活動が入ることによって、苦手意識をもつ児童も増えてくるというのが課題である。今後、さらに中学校への接続が順調にいくように、小学校での学習内容をきちんと身に付けられるように授業を工夫していく必要がある。